



# みどり

5月号

令和5年4月28日

調布市立緑ヶ丘小学校

校長 鳥居 圭

E-mail

midorigaoka-sho@chofu-schools.jp

## ランドセル雑感

校長 鳥居 圭

新年度が始まり、一か月が過ぎました。子供たちは、新しい学年や学級にも徐々に慣れ、休み時間には友達と遊ぶ姿が多く見られるようになりました。今年度入学した1年生も、ランドセルを背負って笑顔で毎日元気に登校しています。

小学生の登下校の姿の象徴が「ランドセル」です。俳句の世界では春の季語にもなっているこの「ランドセル」、じつは語源はオランダ語で、もともとは「背囊」といって、軍隊で装備を背負うバックパックの名称なのだそうです。（そういえば、「機動戦士ガンダム」の背中にも箱がついていて、ビームサーベル等が格納されていました、あれも「ランドセル」と呼ばれていたような…）そして明治18年の学習院初等科にて、「学用品は（召使でなく）自分自身で持って登校しなさい」という趣旨の校則が制定されたことが、現在のランドセルの原型が生まれるきっかけとなったといわれています。その誕生への発想が「(身分にかかわらず) 自分のことは自分でしよう」という「教育の平等」の理念がもとになっていたとは意外ですね。それから130年以上もの間、耐久性があり、両手が自由に使え、転倒時にはクッションとなって後頭部を守るなどの特性から、小学生のランドセルは、ずっと使われ続けています。「トラックにはねられたがランドセルのおかげで軽傷で済んだ」といった話や「川などでおぼれかけた時に浮き具として使える（これは本当）」といったさまざまな言い伝えのようなものが教育界には存在しています。長い間、黒と赤色が主流でしたが、最近ではカラフルな色遣いのもの、軽量化を目指したナイロン繊維のもの、A4サイズ対応、タブレット対応のものなどが登場し、多様化が進んでいて、時代が変わってきたことを実感します。

ランドセルは、子供だけでなく、ご家族の思いも一緒に詰めて、おうちと学校を行き来しているといえます。例えば筆箱にきれいに削った鉛筆を入れて学校に送り出した保護者の方が、芯が丸くなった鉛筆を見て、学校でたくさん勉強したんだなと嬉しくなったり、使われずに済んだ防犯ベルにほっとしたりされている、そんな光景が目に見えます。ランドセルには、その子の学校での生活ぶりも、詰まっているのではないのでしょうか。

本校の子供たちが、保護者の方の思いが形となったランドセルを背負って、笑顔で学校に通い、笑顔でおうちに帰る毎日であってほしいと心から願っています。

